

【青葉区】令和3年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年2月5日（金） 午後3時20分から午後4時30分まで
場 所	WEB会議室
出席者	【座 長】大貫憲夫議員 【議員：5名】田中ゆき議員、山下正人議員、横山正人議員、 行田朝仁議員、藤崎浩太郎議員、平田いくよ議員
	【説明局員（青葉区）：24人】 小澤明夫区長、岡田勇輔副区長、勝島聡一郎福祉保健センター長、 吉田雅彦福祉保健センター担当部長、上田祐一郎青葉土木事務所長、 湊上正基青葉消防署長、ほか関係職員
議 題	(1) 令和3年度 個性ある区づくり推進費 青葉区編成予算（案）について
発 言 の 旨	山下議員 センター長に聞きたいのだが、災害級である新型コロナウイルス感染症について、青葉区の場合は、「青葉区モデル」と言われる医師会をはじめ医療関係者、行政、地域の拠点病院等でうまく連携し合ったシステムが出来上がっていると、他区などから言われている。現状、どのようになっているか。
	勝島福祉保健センター長 様々な面で連携できていると思う。一つは地域包括ケアにおいて、各団体の皆様と連携しながら地域高齢者の在宅医療について取り組んでいる。もう一つは災害医療において、各団体の皆様が集まって、災害時の医療について、「どのようなかたちが良いのか」等についてそれぞれの団体の立場で検討している。 このような二点を中心に、青葉区においては取り組んでいる。
	山下議員 災害時を想定した訓練というのは、何度も何度も行われてきている。15年以上前から、当時の医師会長が中心となって、色々なところに働きかけ、調整を取ってきた結果、今があると思う。 新型コロナウイルス感染症が令和3年度予算の最大のテーマとすると、ワクチン接種は災害級の対応をしていかなければならないと思う。特に30万人の人口を抱えている青葉区においては、医師会をはじめ関係者との調整やシミュレーション等事前にできることは、先手先手を打って行っていないと、混乱があった時に苦情へとつながる。健康福祉局からの指示はあると思うが、もっと早め早めの対応が必要だと思うので、事前準備として、医師会や拠点病院の院長や各種団体の医療関係者とミーティングが必要だと思うが、どうか。
	勝島福祉保健センター長 医師会の山本会長とは、何度も話をしているところである。 ただ、マスコミ報道でも言われているが、ワクチンのロットがかなり大きいということで、それにより、「どのように使用していくか」や「場所の問題」、「スケジュール」等によって医師の動員等が変わってくる。 そのため、ワクチンがいつごろ届き、どこに保管し、どのように接種していくか等おおよその方針が決まらないと、医師会の先生との細かい調整も難しい。ある程度の方向性が決まれば、すぐにでも話し合いの場が必要だと考えている。

山下議員	<p>恐らく自治体ごとに、「あそこは動きが早い」「遅い」などの批判が生まれると思われる。横浜市においては、特別定額給付金のときも人口が多いため、どうしても時間がかかってしまった。あらゆるシミュレーションをして、事前にやれることをやっておかないと後手後手に回ってしまうので、各区が中心にならざるを得ないと思う。</p> <p>区の医師会や医療関係者と行政との連携ができている青葉区が、「やはり青葉区モデルがあったから、スムーズにいったね」と言われるように、ぜひ、事前に各団体とコミュニケーションを取っておいてもらいたい。</p> <p>特に令和3年度の予算は、新型コロナウイルス感染症の対策ができないと、ほぼすべての事業ができなくなるので、「青葉区モデル」と呼ばれる医療団体との連携を最大限に活用してもらいたい。</p>
小澤区長	<p>たしかに青葉区は日常的に、医師会等との連携が取れていると思っている。ただし、健康福祉局からは、「区の役割は会場確保だけである」と言われている現状もある。また医療関係者へのワクチン接種は、県が直接医師会と調整している。高齢者への接種については、健康福祉局で調整等行うことになっている。その中でも区としてもできることを、前倒しで考えていきたいと思う。</p> <p>令和3年度予算についてだが、また感染状況が悪化した場合はできない事業もあると思うが、今年度の経験や知見ももとに、事業を実施できるように努力していきたい。</p>
山下議員	<p>健康福祉局としてもすべてをコントロールすることは難しいと思うので、今こそ区の役割がクローズアップされる時だと思う。我々からも健康福祉局に伝えていくが、青葉区としてもぜひ、がんばってもらいたい。</p>
勝島福祉保健センター長	<p>県主導で行われる医療関係者へのワクチン接種の情報等についても医師会と情報共有していきながら、考えていきたい。</p>
藤崎議員	<p>区長も就任一年目であったが、地域を歩けず大変だったと思う。その中で、令和3年度予算のコロナ対応としてICT活用等が載っているが、例えば「子育て応援保育園事業」のスキルアップ動画は、WEB上で公開すると、青葉区以外の他区の保護者も見られるようになる。</p> <p>そのため、青葉区だけで取り組んでいくのか、それとも18区で相互に協力し合って行っていくのか。各区で協力し合えば、予算も1区辺りでは減ることもあるし、もしくは総額で予算を大きくすることもできる。各区で協力すれば、「より多くの人に動画を見てもらえる」、「より質の高い動画を作っていける」、「より動画の本数が増える」といった考え方もあるが、「子育て応援保育園事業」の動画配信に関しては、どのように進めていくのか。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>動画配信だが、クオリティは全国レベルを目指している。一方で、動画の中身については、青葉区の家や子どもでこそ楽しめる、ローカルな内容にしていきたいと考えている。そのバランスを取りながら、まずは区民の皆様に満足してもらえる動画を目指していく。</p>
藤崎議員	<p>青葉区ならではの部分は大事だと思う。ベースとなる共通の部分と青葉区ならではの部分を切り分けながら、こども青少年局とも調整しつつ、多くの人に見てもらい、活用してもらえる取組にしてもらいたい。</p> <p>また、セミナー関係もICTを活用していくようだが、オンラインで参加してもらっただけなのか。それとも録画して、参加できなかった人たちにも後から見られるようにするのか。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>この一年色々なスタイルを模索しているが、「参加できない人が後日見る」といった方法も実際に挑戦している。</p> <p>また、今年度において試しでやっているが、地域ケアプラザと連携し、高齢者向けの体操教室を複数会場で開催したいと考えている。10箇所くらいに分かれた場合、1会場5～6人程度の少人数で開催できるといったメリットもある。またその程度の人数だと、画面に近づき、体操の先生の動きも細かく見ることができる。また体操が終わった後には、地域ケアプラザの職員が声をかけ、困りごとについてもきめ細かく対応できるといったことにも挑戦していきたい。</p>

藤崎議員	動画作成については、再生回数が重要だが、職員の確認視聴による再生回数増では意味がない。どのような方法で受け手に届いたのかを確認するのか。
吉田福祉保健センター担当部長	今回作成する動画の中には、「工作をする」といった動画も考えている。動画で作成した工作のキットについては、実際に区内公立保育園に用意し、プレゼントする予定。それを取りに来た人数等も見ていきたいと思う。
藤崎議員	ぜひ、今までの考え方にとらわれず、実施してもらいたい。 最後に「リモート型防災啓発事業」がオンライン配信となっているが、どのくらいの事業規模なのか。また、誰が対象なのか。
守屋総務課長	今年度は体験型のイベントを考えていたが、中止になってしまった。今年度のものは一回50人で、二回実施する予定だった。令和3年度のイベントに関しては、リモート型ということで、より大多数の区民に参加できるように考えている。対象については、基本的には誰でも参加できるように考えている。実際の実施方法については、現在、事業者と検討中である。
藤崎議員	オンライン開催は場所を共有する必要がない性質上、より多くの参加者を募れる可能性があるのでは、いかに企画を知ってもらうか、参加しやすいかが問われると思う。コロナ禍が終わっても活用できる部分だと思うので、先を見通してやっていただきたいと思う。 最後に「青葉ブランド事業」だが、以前の認定以降、新たに認定される機会がない。既存の選ばれたお店だけとなってしまっているのも、もったいない。もっと色々な店が選ばれる機会がないと、広がっていかないと思う。今後拡大させていく考えはあるのか。
鈴木地域振興課長	「青葉ブランド事業」だが、認定委員から「まずは、周知が必要ではないのか」との意見をもらっている。また、認定店舗との意見交換会でも「周知・広報が必要」といった意見をもらっているため、まずは広報に力を入れていこうと考えている。その中でイベントの開催を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の発生により、令和元年度に引き続き、今年度のイベントも中止ということになった。引き続き、広報や周知を行いながら、青葉ブランドの魅力を伝えていきたい。 いずれまた新たな認定については、認定委員の意見ももらいつつ、検討していきたいと思うが、令和3年度についてはイベントの開催や広報によるPRに力を入れたいと考えている。
藤崎議員	区内には他にも良い店がたくさんあり、3年前に認定された店だけしか注目されないのは、もったいないので、何か工夫をしていただければと思う。
横山議員	コロナ禍のため、今年度の事業において、成り立っていない事業もあると思う。不用額が見込まれるものはあるのか。
岡田副区長	新型コロナウイルス感染症の影響で、事業に着手できなかったものは、かなりある。具体的な金額は言えないが、100ある予算のうち、例えば60くらいは行い、リモートに変えるなどして区民サービスを低下させないように工夫して取り組んだ。それでも不用になった部分については、9月の会議で説明した内容だが、地域防災拠点等の感染症予防対策物品等に充当している。そのため、最終的な決算見込みとしては、8～9割くらいは執行できると思う。
横山議員	個性ある区づくり推進費自体は、流用が可能なので、このコロナ禍においては、活用できるものは活用してもらいたい。 令和3年度の統合事務事業費と施設管理費は減額となっているが、事業見直しや工夫によるものか。
岡田副区長	統合事務事業費に関しては広報よこはま青葉区版のページ数を減らした等の工夫によるものだが、大きな減額にはなっていない。

横山議員	<p>区長のあいさつの中で、「事業の見直しや合理化」が言われていたが、令和3年度予算編成において、既存の事業の見直しや効率的な事業執行したものがあれば教えてほしい。</p>
小澤区長	<p>「あらゆる事業をゼロベースから見直した」と言ったが、リモート型に変えるとか、集合型を分散型に変えるなど、基本はやり方の見直し・工夫を行った。そのため、予算額としては、自主企画事業費は昨年同等維持している。統合事務事業費は先程の広報の理由、施設管理費は工事による休館に伴う光熱水費の不要など、明らかな理由で減額となっている。</p> <p>小さくではあるが、一つ一つの事業をすべて見直した結果が、予算額となっている。</p>
横山議員	<p>令和3年度において、市民・区民の共通の関心は、新型コロナウイルス感染症対策である。個性ある区づくり推進費に新型コロナウイルス感染症を意識した取組をどう反映するかが、区に求められている課題だと思う。</p> <p>現状、事業の見直しや感染症対策に取り組むとしているが、この先どうなるかわからないし、急に区で独自事業を組まなくてはいけないこともあるかもしれない。個性ある区づくり推進費においては、予算額というものはあるが、柔軟性を持つべきだと思うが、どうか。</p>
小澤区長	<p>令和3年度予算案を組むにあたっては、今年度の教訓を生かした部分がある。今年度の4月に緊急事態宣言が出たときは、事業を止めたり、延期した事業もあり、慌てた部分があった。令和3年度予算編成においては、新型コロナウイルス感染症の流行も想定して、流行した場合も対応できるように個々の事業を組んでいるつもりである。</p> <p>例えば、集合型で実施しようとしている講演会においてもオンラインに変えるとか、もしくは併用するなど様々な形で柔軟に実施できる体制はできていると考えている。それでも実施できない状況になれば、不用は出てしまうかもしれないが、その部分を使って新規取組を行うなど、スクラップ&ビルドもその時々で進めていきたい。</p>
横山議員	<p>感染症対策にあたっては、局予算や市全体の予算配分の中でやるのが当然であると思う。ただし、区として「この部分は手厚くやりたい」とか「青葉区の特性に応じてこの部分に予算配分をしたい」といった部分があれば、個性ある区づくり推進費においては柔軟に対応してもらいたい。</p>
行田議員	<p>感染症対策としては、区としてもセーフティーネットの観点で力を入れていく必要があると思う。例えば、児童虐待対策は全国的に問題になっているが、令和3年度の予算金額としては増えているわけではなく減っている。新型コロナウイルス感染症によって社会的環境が変わってきた中、今後、助けを求める声があった時、青葉区として助けに行ける体制になっているか。</p> <p>また建築局では住宅確保の相談窓口を一本化したとのことで、サポートが薄くなったりしないのかと心配等している。現場を知っている区としては、今ある機能を使えているのか。まだまだ足りないと思っているのか。</p> <p>セーフティーネットという点で、児童虐待と住まいの話について聞きたい。</p>
吉田福祉保健センター担当部長	<p>困窮制度に関してだが、今年の第一・第二四半期は、相談が非常に多くなっていた。秋口に入っては相談件数が落ち着いてきているが、二回目の緊急事態宣言が出てきてからはまた、窓口でも相談件数が増えてきていると感じる。</p> <p>虐待に関しては、学校が休みだったこともあり、夏休み前は前年の5割減で推移していた。一方学校が始まった7月～12月では、前年の2割増となっていたため、一年を通してみると昨年度と同じ程度区には相談が寄せられている。</p> <p>令和3年度の局事業において、「子ども家庭総合支援拠点」が先行して展開される10区の一つに青葉区が選ばれている。実際サービスが開始するのは令和3年度末頃かもしれないが、そのような拠点整備を通じて、虐待や生活困窮で悩んでいる家庭に対応していきたい。生活支援課、こども家庭支援課の二つに課にまたがる内容であり、また、区社会福祉協議会とも連携していかなければならないと思っているので、ネットワークを作ってしっかり対応していきたい。</p>

行田議員	<p>トレンドとしては増えていくと思うので、先手先手で打てる手は打って行ってもらいたい。</p> <p>恐らく失業保険の観点から言えば、1年間の失業保険が切れてくるタイミングがこれから来る。虐待の話も飲食店をしている人の話もそうだが、皆、耐えながら生活している中で、爆発しそうな状況にまでなっている。そのため、単年度で物を見るだけでなく、コロナ禍においては先を見て手を打ってほしいと思う。</p>
勝島福祉保健センター長	<p>区としても、虐待はこれから増えていくだろうとは予想している。こども家庭支援課でも区内の精神科の先生のグループや、産婦人科の助産師のグループ、小児科の先生のグループなどとオンラインで意見交換を行ったところである。虐待や自殺問題に関しては、注意深く見てもらうようお願いをし、個性ある区づくり推進費では予算は使わないが、引き続きオンラインでの意見交換等に取り組んでいきたい。</p>
田中議員	<p>「特定健診の受診率向上事業」についてだが、コロナ禍で特定健診だけでなく、がん検診の受診率も下がっていると聞いているが、現状としてはどうなっているか。また今後の取組は。</p>
勝島福祉保健センター長	<p>コロナ禍のため、医療機関においても健診そのものについて難しい状態である。ただし、喫煙している人、生活習慣病を持っている人、肥満の人等は、病状が悪化することが多いので、それを防ぐ意味でも、新型コロナウイルス感染拡大の状況を見ながら、区民の皆様に特定健診を勧めていきたい。現状では、健診を強く勧めることは難しいため、タイミングを見ていきたい。</p>
田中議員	<p>次に、「おくやみハンドブック」についてだが、区民から「遺品整理が大変。業者を紹介してもらえないか」といった声があるが、「おくやみハンドブック」には遺品整理の業者や情報等は掲載されているのか。</p>
白井戸籍課長	<p>「おくやみハンドブック」は、具体的に民間の業者を紹介はしていない。いただいた意見を踏まえ、改訂の際に検討していきたい。</p>
田中議員	<p>最後に「戸籍課窓口の混雑対策事業」だが、先日区役所を訪れたとき、転出入の窓口やマイナンバーの窓口が混んでいたようだが、春先の更なる混雑にあたり、何か対応を考えているか。</p>
白井戸籍課長	<p>現在、戸籍課の窓口は2階であるが、1階にもモニター表示を設置したり、2階窓口の増設等を進めている。3月、4月の繁忙期にうまく対応できるようにしていきたい。</p>